

☆ 子ども会 (学習会) だより ☆

MY SKY 第5号 ☆ ☆

マイ スカイ

1996年5月14日火曜日発行(毎週火曜日定期発行)

発行 者

板野中学校

学 習 会

編集・文責：吉成正士

さて、遠足^{えんそく}も終わり少し落ち着いてきたでしょうか。遠足の時に見た新緑^{しんりょく}のモコモコした山が、すごく新鮮^{しんせん}に感じられました。私たちも新芽^{しんめ}のようにさわやかに伸び上がっていききたいですね。

いよいよ今週から全体学習が始まっていますが、5時間目授業をするクラスと同じくらい、他のクラスも盛り上がりおきましようね。そして、気持ちの込もった第1回全体学習にしていましよう！！



◎子ども会(学習会)開講式を終えて

5月2日で学習会5会場の開講式が終わったのですが、昨年^{さくねん}ともまた違った雰囲気^{ふんいき}の開講式になりましたね。

まず一番に気づいたのは、生徒のみなさんが開講式の司会・進行をしていたということではないでしょうか。これも、慣れ^なと経験^{けいけん}で随分と違ってくるんですね。どの会場の司会も、いきいきと元気よく、スッパリできていました。もうすでに大人^{おとな}を越えてる感じでしたよ。

次に気づいたのは、参加者の多さではないでしょうか。生徒のみなさんの中には残念ながら参加できていない人もいましたが、それをカバーするかのようには、多くの先生方^{せんせい}や真友会^{めゆうかい}(板野町^{いたのまち}高校生友の会^{ともかい})のみなさん、部落解放同盟青年部^{ぶらくかいほうどうめいせいねん}の方々が参加してくださいました。ですから自然^{しぜん}と自己紹介^{じこしょうかい}も長くなってしまったわけですが、今までとは違った自己紹介^{じこしょうかい}になって、すごく良かったように思います。時には小学生や、他の会場からの応援^{おうえん}も駆けつけていたわけですが、そうすると、いろんな年代層^{ねんだいそう}の人がいて、すごくほのぼのするんですね。いろんな年代層^{ねんだいそう}の人がいるということは、大切なことなんですね。

以前は、会場ごとの1・2・3年のみなさんがつながれてなかったり、5会場のみなさんがつながれてなかったりしていたように思うのですが、一つ一つの点であったものが、

◎第1回小・中・高同和教育主事・主任・担当者会（4月26日・徳島県教育研修センター）

私や阿部先生は、校内の先生方の中でも出^{しゅっちよう}張が多い方です。つい先日も、徳島市内の教育研修センターというところへ行っていました。県内の小・中・高校の私たちのような^{たち}立場^はの方々が集^{つど}う会なのです。

そこで、「よあけ」という同和問題啓発テキストを手にしました。その中の一文を紹^{いちぶん}介^{しょう}しておきます。みなさん、読んで考えてみてください。

板野・鳴門差別事件

昭和52年11月17日の、秋^{あき}晴^ばれの日の出来^{でき}事^{ごと}でした。

板野町のA子(38歳)さんは、同和地区のC出身ですが、地区から離れたD町に住^{はな}んでいました。

この日は、みかんの行^{ぎやうしやう}商のため、鳴門市へやってきました。E町のB氏(54歳)の家を訪^{たず}ねた時のことです。B氏は、町内会の会長をしており、とても話し好きで、A子さんからみかん一箱を買^かうと、

B：「まあ、ねえさん、一服^{いっぷく}していかなで。」

と、話の相手に誘^{さそ}いました。

A：「あんた、どこで、C町でか。」

A子さんは、ドキッとしました。この人は、私を疑^{うたが}っているのだろうか。C町は同和地区であつたからです。

A：「D町ですわ。C町からちょっと南へ下^{ていぼう}って、堤防^{ていぼう}の所でわ。」

B氏は、A子さんが同和地区の人でないと思ったのか、例の話好きで、ずけずけとしやべり出しました。

B：「このごろは、法律(同和対策特別措置法)ができ、家や道路は、ようになったけど、言葉が悪いなあ、あの、言葉の悪いのを、直さなあかなでわ。」

A子さんは、これまで研修会などに参加していて、同和問題について勉強していました。

言葉が悪いから、差別されるというのはおかしい。言葉が悪いのは、部落だけではない。言葉を直したら、差別がなくなるといえるのだろうか。大切なのは、言葉が悪いと言われる背景^{はいけい}に差別があることを、B氏に知ってもらいたい気持ちでした。

A：「それはそうじゃけんど、そんな人ばかりではないでよ。」

と、A子さんのこの一言は、精一杯の反論を示しました。B氏は、一息つくと、自信ありげに言いました。

B：「わしらは、目や顔を見たら、あっちの人は一目で分かるでわ。」

(同じ日本人ではありませんか。)とAさんは叫びたい気持ちでした。

何人かの人が並んでいるとして、その人たちを、同和地区の人と、地区外の人と誰が区別できましようか。できるはずがありません。

B氏は、これまで自分が見聞きし、過去の低位な同和地区の実態に対する偏見と、ごく一部の人の印象とを重ねて、同和地区のすべての人へのイメージをつくり上げているのだと、Aさんは思いました。

粗暴な言動をとる人を見て、「同和地区の人ではないだろうか。」とか、三面記事を見て、「こんなことをするのは、あっちの人と違うか。」など、同和地区を、あたかも悪の代名詞のように見ていないでしょうか。また、ある人が問題を起こしたとき、それを同和地区全体のことであるかのように見ていないでしょうか。B氏は更に続けて、

B：「土方やいうたら、昔は、うちの方では〇〇や△△(ともに同和地区)の人ばかりだったでわ。今は、こっちの人もしよるけんど。」

職業に貴賤はないはずです。土方というのは日雇いで建設作業に従事する人たちです。だからといって、それが差別の対象になるでしょうか。B氏は、なおも、

B：「むかし、川で〇〇(同和地区)の子どもの水死体が上がったとき、〇〇の人は、そばにおる人に『お前ら、何しよんな。一緒に泣いたらんかい。』と言って、みんな、もらい泣きしよった。うちの方では、もらい泣きなどせん。することが変わっとる。ほなけんど、むこうの人は確かに情があるでわ。困ったときには、みんな助け合うでわ。」

人の死を悼み悲しむのは、人情として当然のことではありませんか。B氏には、当たり前のことが、当たり前に見えていないと、Aさんは思いました。

B：「あっちの人は、なんでも、集団で行動するでわ。」

同和地区は、「こわい」「うるさい」所だとする考えが、人々の間に根強く、存在しています。例えば、何かの争い事として交通事故がよく出されますが、大抵の場合は、本人の体験でなく、単なるうわさに過ぎないことが多いようです。

B氏は、最後に、

B：「幾らつくろうても、我々とは先祖が違うしなあ。いくらよい身なりをしても、

中身までは変わらん。人間が違うしなあ。」

A子さんは、胸に五寸くぎを打たれた思いでした。これは許しがたい差別発言だと思いました。やっとの思いで、

A：「今は、人間みな平等でよ。徳川政治がつくったんでよ。」

A子さんは、どの道をどう運転して帰ってきたのか、はっきり覚えていませんでした。とても、腹が立って仕方がなかったのです。

受けたショックが、大きかったために、反論もできず、憤りを抑えるのに精一杯だったのです。差別に気付かない人には、何気ない発言であっても、受ける側の衝撃は大変なものなのです。

その後、B氏はこの事件によって、自分の誤りに気づき、各種の同和問題の研修会にも参加し、差別解消のために、積極的に取り組んでいます。

「同和問題啓発テキスト よあけ」より

「昭和52年」となっていますが、このようなことは当時の問題とか、昔の問題とかではなく、今でも少なからず残っている問題だと思います。特に昨年板野町で行われた訪宅研修でのことを考えると、まだまだという感じがします。訪宅研修のことについては、昨年度のMY SKY第14号に少しだけ載せていますが、「よあけ」の内容とすごく重なるように思います。昔の作り話というのではなく、今の事実として、みんなが考えていかねばならないことだと強く感じました。



◇ これからの日程 ◇ ◇ ◇

全体学習を控えて、3年生も2年生もそれぞれの資料に取り組んでいることと思います。どの学年も1回目の全体学習は、今年1年をうらなう意味ですごく大きな存在だといえます。資料をとおして今の自分たちの生活を見つめ直し、しかも語れる子が語れない仲間の思いを代弁し、そして多くの仲間が語り合えればと思います。当日までにそれぞれの学級でしっかり語り合い、体育館での準備をしておきましょう！



- 5月16日(木) 3年第1回全体学習3年A組：資料「読研がソフット 心のふれあい明るい明日」
- 18日(土) 2年第1回全体学習2年B組：資料「つらいことあるねんな」
- 21日(火) 『MY SKY 第6号』発行日
- 24日(金) 輝け板中まつり「体育祭」
- 28日(火) 『MY SKY 第7号』発行日
- 30日(木) 1年第1回全体学習1年D組：資料「だから悪い」